

全国 COVID-19 流行状況¹

中国疾病予防管理センター

2023年2月18日

一、感染サーベイランスデータ

(一) 全国から報告された SARS-CoV-2 PCR 検査の状況

2022年12月9日以後、各省²が報告した PCR 陽性件数と陽性率は、はじめは増加、後に減少という傾向を示した。陽性者数は12月22日にピーク（694万人）となった後波状に下降し、2023年2月16日には10,720例となった。検査陽性率は12月25日（29.2%）にピークを迎えた後ジグザグに減少し、2月16日は1.1%であった（図1-1）。

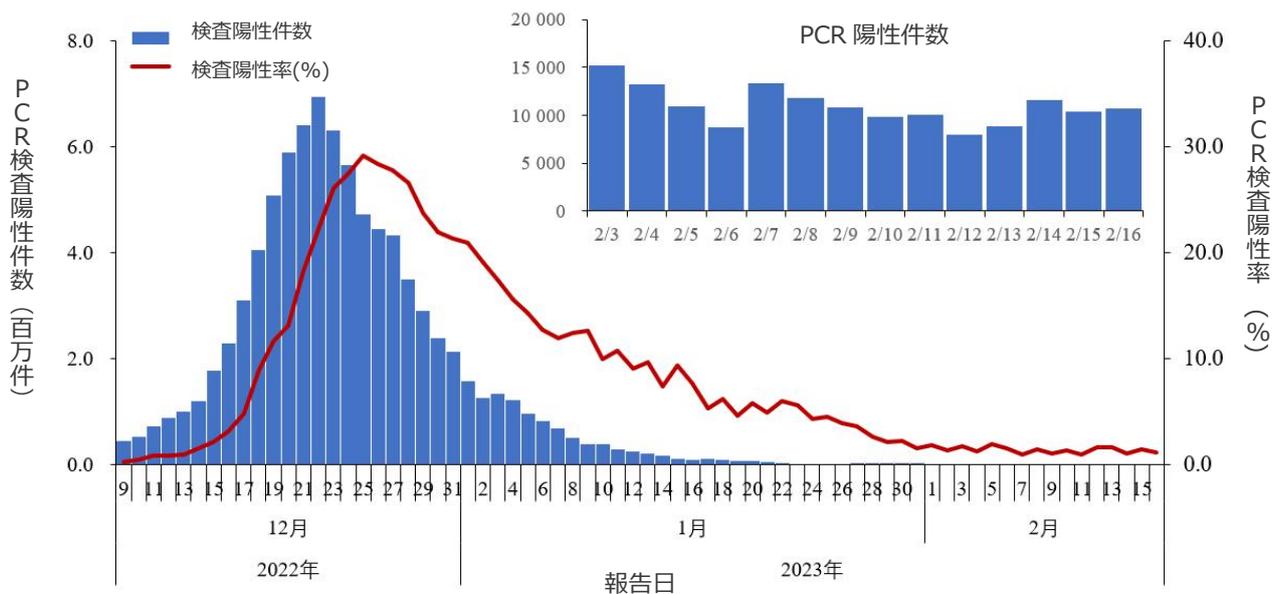


図 1-1 全国から報告された SARS-CoV-2 PCR 検査陽性件数と陽性率の変化の傾向

(データは31の省(区、市)、新疆生産建設兵団の報告による)

¹ 『全国新型冠状病毒感染疫情情况』中国疾病预防控制中心 (CDC) 2023.2.18

https://www.chinacdc.cn/jkzt/crb/zl/szkb_11803/jszl_13141/202302/t20230218_263807.html

² 原文は「省份」で、22省、5自治区、4直轄市の全部を指すが、日本語版では便宜上一括して「省」と表記する。

(二) 全国から報告された SARS-CoV-2 抗原検査の状況

各省の抗原検査件数は波を描きながら減少する傾向を示し、2022年12月19日の最高値189万件から、2月16日には7.2万件まで減少した。抗原検査陽性件数と陽性率は、2022年12月9日から急上昇し、12月22日にピーク（33.7万件、21.3%）を迎えたあとジグザグに下降し、2月16日には508件（陽性率は0.7%）となった（図1-2）。



図 1-2 全国から報告された SARS-CoV-2 抗原検査陽性件数と陽性率の変化の傾向

(データは31の省(区、市)、新疆生産建設兵団の報告による)

二、全国の発熱外来（診察室）診療状況

(一) 受診者数全体の状況

全国（香港、マカオ、台湾は含まない）の発熱外来（診察室）受診者数は、2022年12月23日にピークの286.7万人となった後連続して下降し、2023年1月23日以後は低い水準で上下、2月16日には12.4万人とピーク値から95.7%減少した（図2-1）。

注：2022年12月9日から2級以上³の医療機関の発熱外来の診療数をモニタリングした。12月21日からは社区卫生サービスセンターと郷鎮衛生院の発熱診療室の診療数もモニタリング対象に加えた（村の衛生室と社區衛

³ 中国の医療機関のレベルは1~3級に分けられ、3級が最もレベルが高い。

生サービスステーションは含んでいない。



図 2-1 全国の発熱外来（診察室）診療人数の変化の傾向

（データは 31 の省（区、市）、新疆生産建設兵団の報告による）

（二）農村の発熱外来（診察室）受診者数の状況

全国の郷鎮衛生院の発熱外来（診察室）の受診者数は、2022 年 12 月 23 日がピークで 92.2 万人を数え、その後波を描きながら下降、2023 年 1 月 23 日以後は低い水準で上下し、2 月 16 日には 4.6 万人とピーク値より 95.0%減少した（図 2-2）。

注：農村発熱患者診療数は郷鎮衛生院の発熱診察室の診療数である（村の衛生室は含んでいない）。

（三）都市の発熱外来受診者数の状況

全国の 2 級以上の医療機関と都市の社区卫生サービスセンターの発熱外来（診察室）の受診者数は、2022 年 12 月 22 日の 195.4 万人がピークで、その後は連続して減少し、2023 年 1 月 23 日以降は低い水準で上下し、2 月 16 日には 7.7 万人と、ピーク値より 96.0%減少した（図 2-3）。

注：都市部の発熱外来診療数は 2 級以上の医療機関と社区卫生サービスセンターの診療数を含む（社区卫生サービスステーションは含んでいない）。

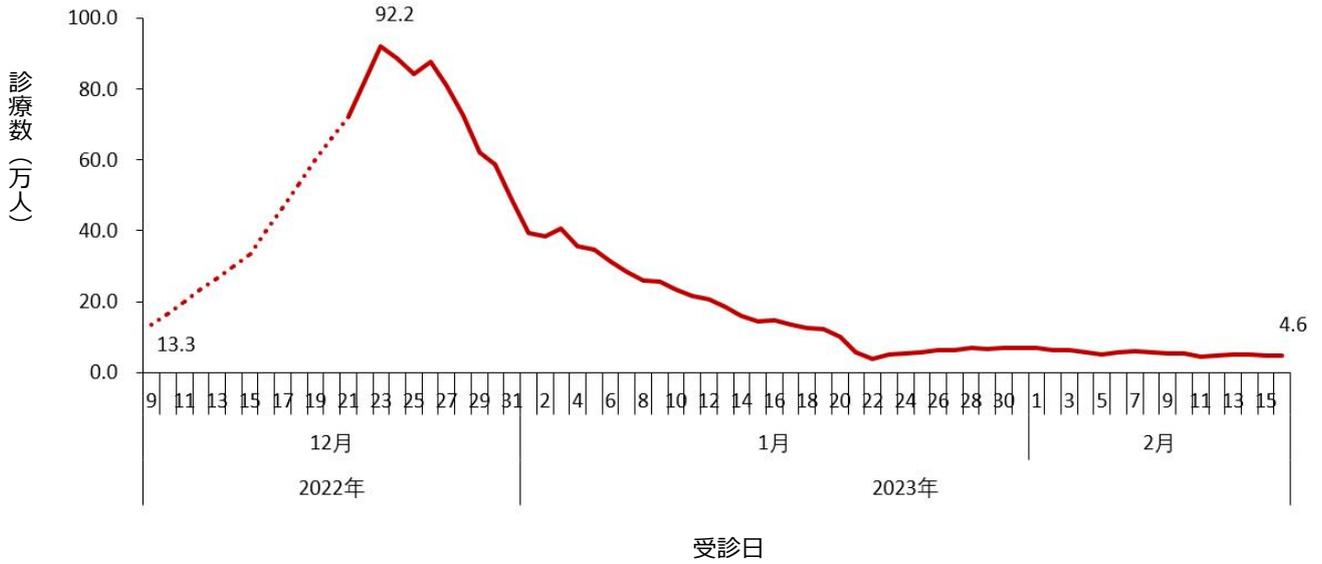


図 2-2 全国の農村地区郷鎮衛生院の発熱外来（診察室）受診者数の変化の傾向

（データは 31 の省（区、市）、新疆生産建設兵団の報告による）

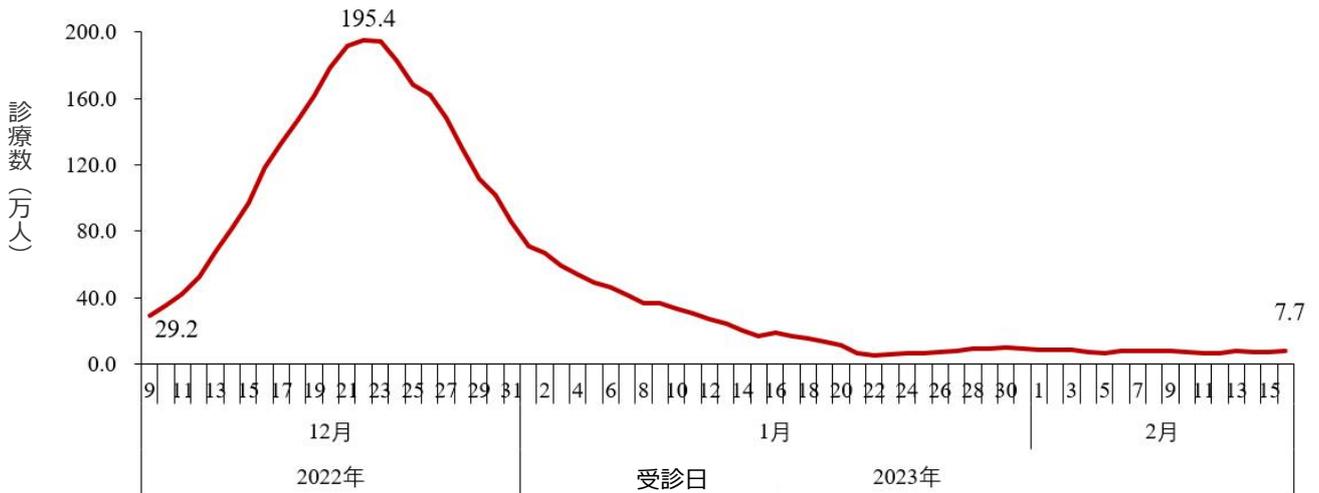


図 2-3 全国の都市の発熱外来（診察室）受診者数の変化の傾向

（データは 31 の省（区、市）、新疆生産建設兵団の報告による）

（四）定点病院のサーベイランスの状況

2022年9～12月上旬、全国のインフルエンザサーベイランス定点病院の毎週のインフルエンザ様症例（体温 $\geq 38^{\circ}\text{C}$ で咳嗽か咽頭痛のいずれかを伴う）数は10万例前後で落ち着いており、インフルエンザ様症例が外来、救急外来受診者に占める割合は2.7～3.6%の間で推移していた。第50週（12月12～18日）には同割合は8.5%まで著明に上昇、第51週には最高の12.1%となり、第52週からは急速に

下降した。2023年第6週（2月6～12日）には1.4%にまで減少した（図2-4）。

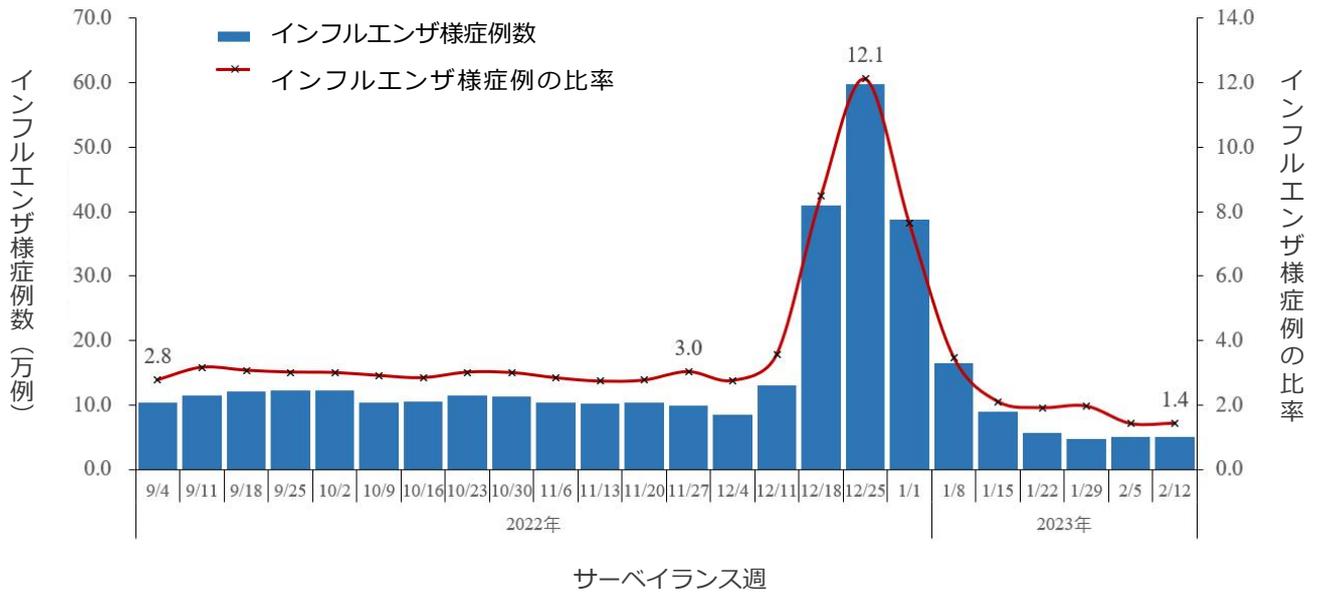


図 2-4 全国サーベイランス定点病院報告のインフルエンザ様症例数と比率の変化の傾向

(データは 824 か所の定点病院による)

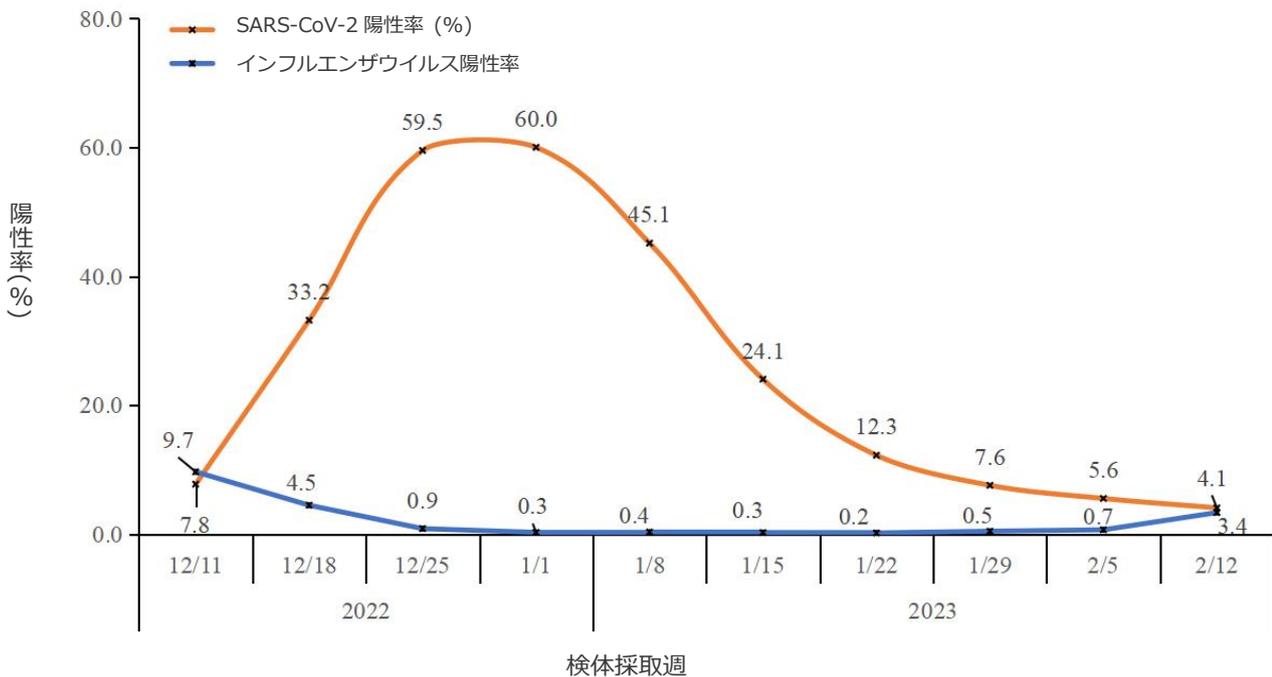


図 2-5 全国サーベイランス定点病院でのインフルエンザ様症例の SARS-CoV-2 とインフルエンザウイルス陽性率の変化の傾向

(データは 402 か所のネットワーク検査室による)

2022年第49週（12月9日）からインフルエンザ様症例のSARS-CoV-2陽性率がしだいに増加しはじめ、第51～52週にピークとなった後下降に転じ、2023年第6週（2月6～12日）にはSARS-CoV-2陽性率は4.1%まで減少した。インフルエンザウイルス陽性率は2022年第49週から次第に減少し、12月下旬～2月初旬にはきわめて低い水準（1.0%以下）となった。2023年第6週にはインフルエンザウイルス陽性率はやや上昇した（3.4%）（図2-5）。

三、入院診療の状況

（一）在院 COVID-19 患者の状況

全国の在院 COVID-19 患者は2023年1月5日に最多の162.5万人となり、その後は連続して減少、2月16日には2.0万人となり、ピーク値より98.8%減少した（図3-1）。

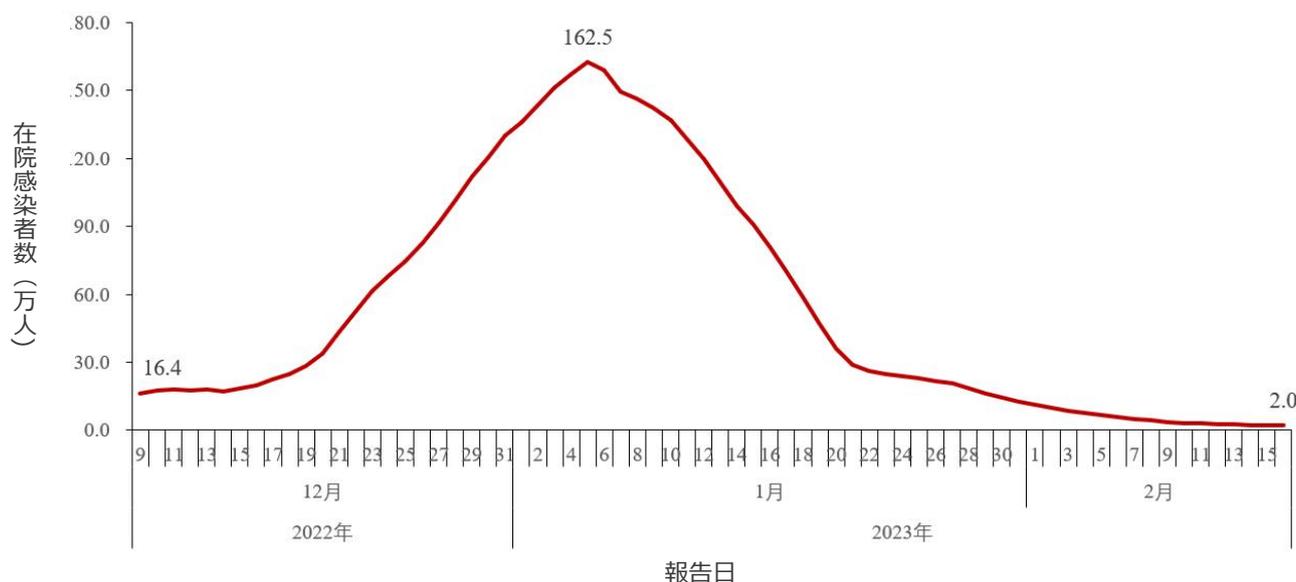


図 3-1 全国在院 COVID-19 感染者の日毎変化の状況

（データは31の省（区、市）、新疆生産建設兵団の報告による）

（二）在院 COVID-19 陽性重症患者の状況

全国の在院 COVID-19 感染者のうち重症患者の数は、2022年12月27日～2023年1月3日の期間は毎日1万人近く増えたが、1月4日には増加数が著明に下降、1月5日にはピークの12.8万人となり、その後は連続して減少、2月16日は56例（COVID-19重症6例、基礎疾患重症+COVID-19感染50例）で、ピーク値より99.9%減少した（図3-2）。

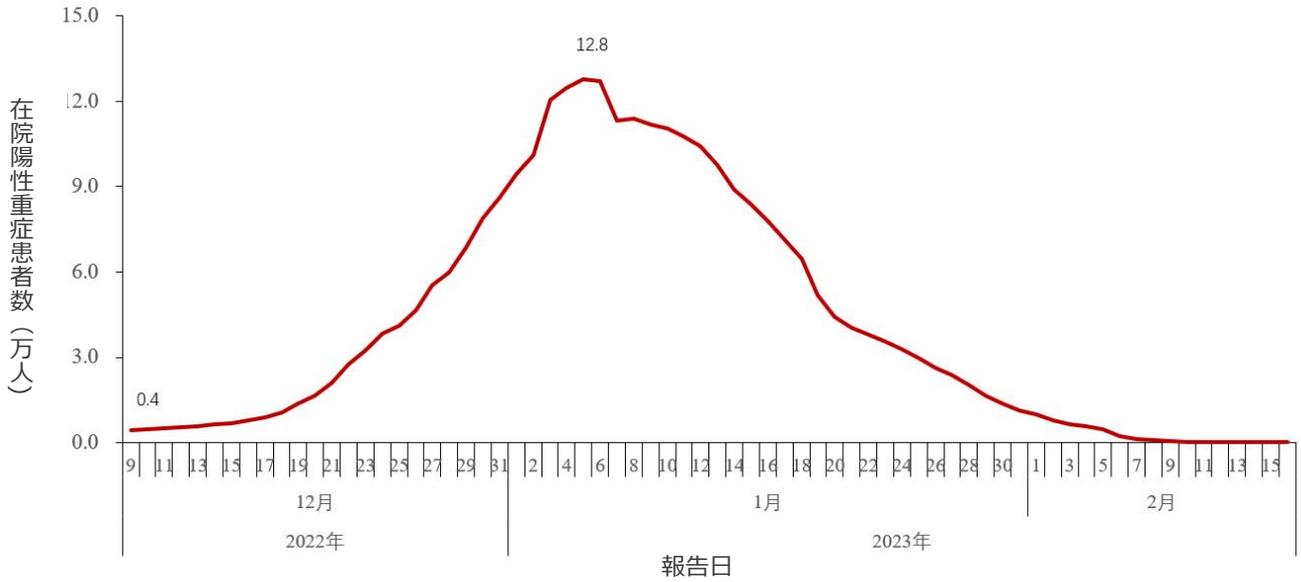


図 3-2 全国在院 COVID-19 陽性重症患者の変化の状況

(データは 31 の省 (区、市)、新疆生産建設兵団の報告による)

(三) 在院 COVID-19 死亡症例の状況

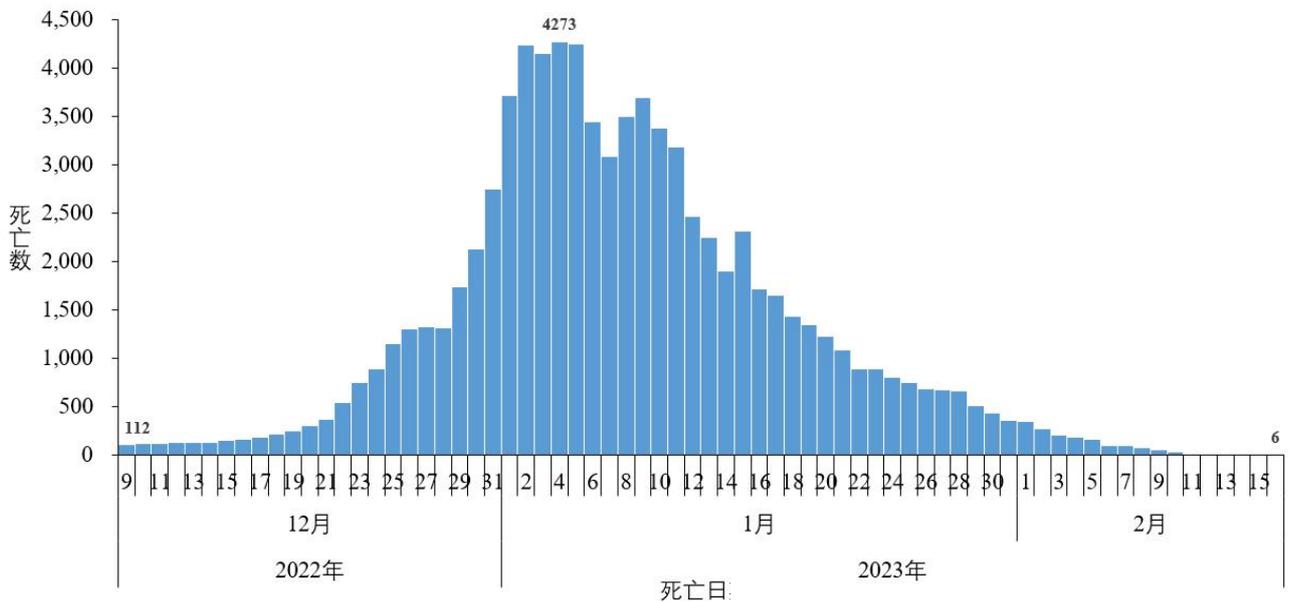


図 3-3 全国在院 COVID-19 死亡症例の変化の状況

(データは 31 の省 (区、市)、新疆生産建設兵団の報告による)

在院 COVID-19 死亡症例数は 1 月 4 日がピークで 1 日 4,273 例となり、その後は連続して減少、2 月 16 日は 6 例で、ピーク値より 99.9%減少した (図 3-3)。2 月 10~16 日、31 の省 (自治区、直轄市)、

新疆生産建設兵団の医療機関の在院 COVID-19 関連死亡症例数は 98 例で、うち COVID-19 での呼吸不全による死亡が 1 例、基礎疾患があり COVID-19 に感染したことによる死亡が 97 例であった。

四、COVID-19 本土症例ウイルス変異サーベイランス状況

(一) 全体の状況

2022 年 9 月 26 日～2023 年 2 月 16 日、全国で計 25,632 例の本土症例の有効な SARS-CoV-2 ゲノムシーケンスが報告され、その全部がオミクロン株であった。78 の亜系統が存在し、主要な流行株は BA.5.2.48 (53.4%)、BF.7.14 (24.9%)、BA.5.2.49 (13.9%) であった。BA.5.2 などの 20 の亜系統の構成比は 0.1%～2.4%の間、55 の亜系統の構成比は 0.1%未満 (あわせて 0.6%) であった (図 4-1)。

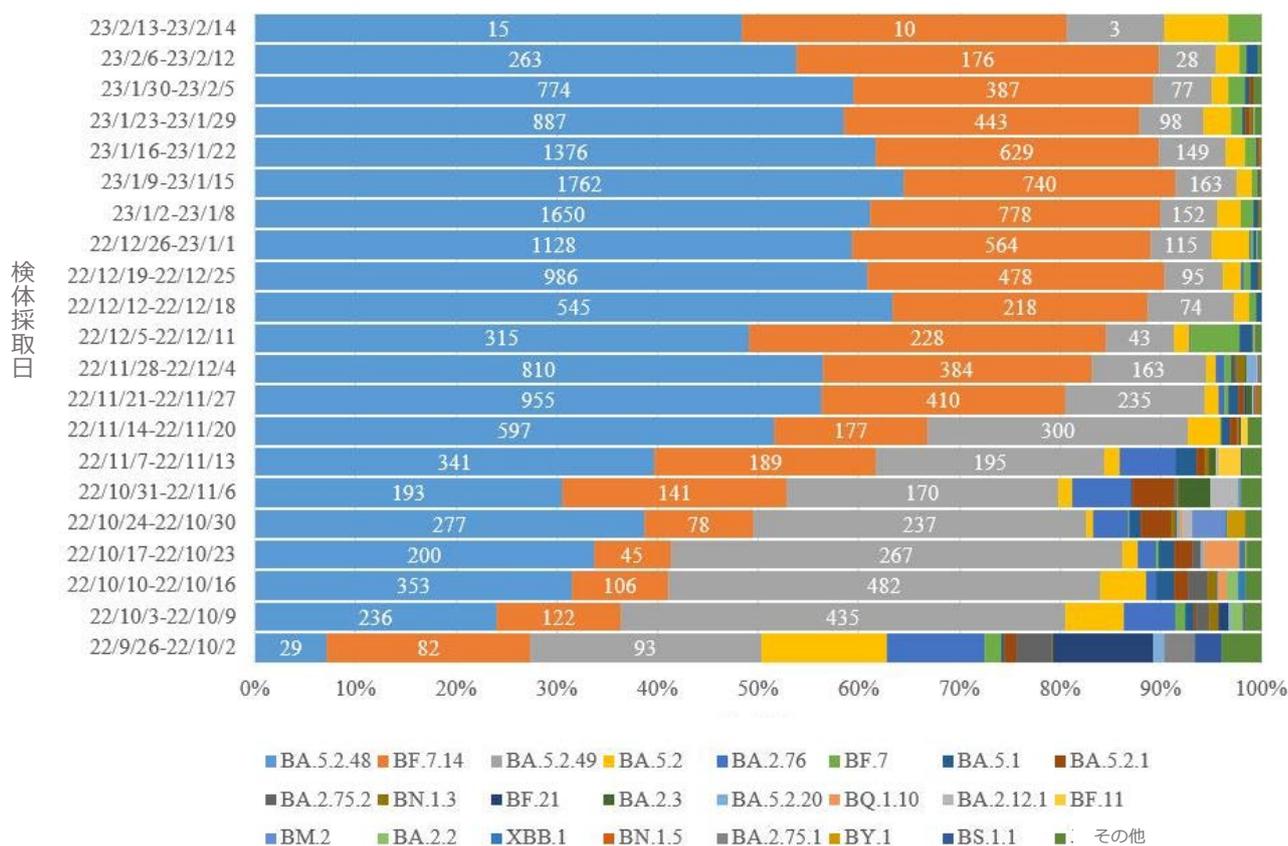


図 4-1 全国 SARS-CoV-2 変異株の変化の傾向図

- 注：1. 検体採取日：2022 年 9 月 26 日～2023 年 2 月 14 日。
 2. グラフ内の数字は BA.5.2.48、BF.7.14、BA.5.2.49 各系統の有効なゲノムシーケンスの数。
 3. 「その他」は、全国でオミクロン変異株の構成比が 0.1%未満の亜系統。

(二) 12月以降の本土症例変異ウイルスサーベイランス状況

2022年12月1日～2023年2月16日、全国で計16,931例の本土症例の有効なSARS-CoV-2ゲノムシーケンスが報告され、その全てがオミクロン株であり、全部で34の亜系統が存在していた。主要な流行株はBA.5.2.48（60.4%）和BF.7.14（28.9%）であった（表4-1）。重点的に注目すべき変異ウイルスはあわせて15例発見され、うちXBB.1が1例、XBB.1.5が1例、BQ.1が1例、BQ.1.1が5例、BQ.1.1.17が1例、BQ.1.2が4例、BQ.1.8が2例であった。

(三) 各省のSARS-CoV-2変異の状況

総体として見ると、北京、天津、内モンゴルでは

表4-1 全国本土SARS-CoV-2変異株の状況
(2022年12月1日～2023年2月16日)

オミクロン株亜系統	構成比(%)
BA.5.2.48	60.4
BF.7.14	28.9
BA.5.2.49	6.5
BA.5.2	2.1
BF.7	1.0
BA.5.1	0.4
BA.2.76	0.1
BA.5.2.1	0.1
BA.5.2.20	0.1
BN.1.3	0.1
その他	0.3
合計	100.0

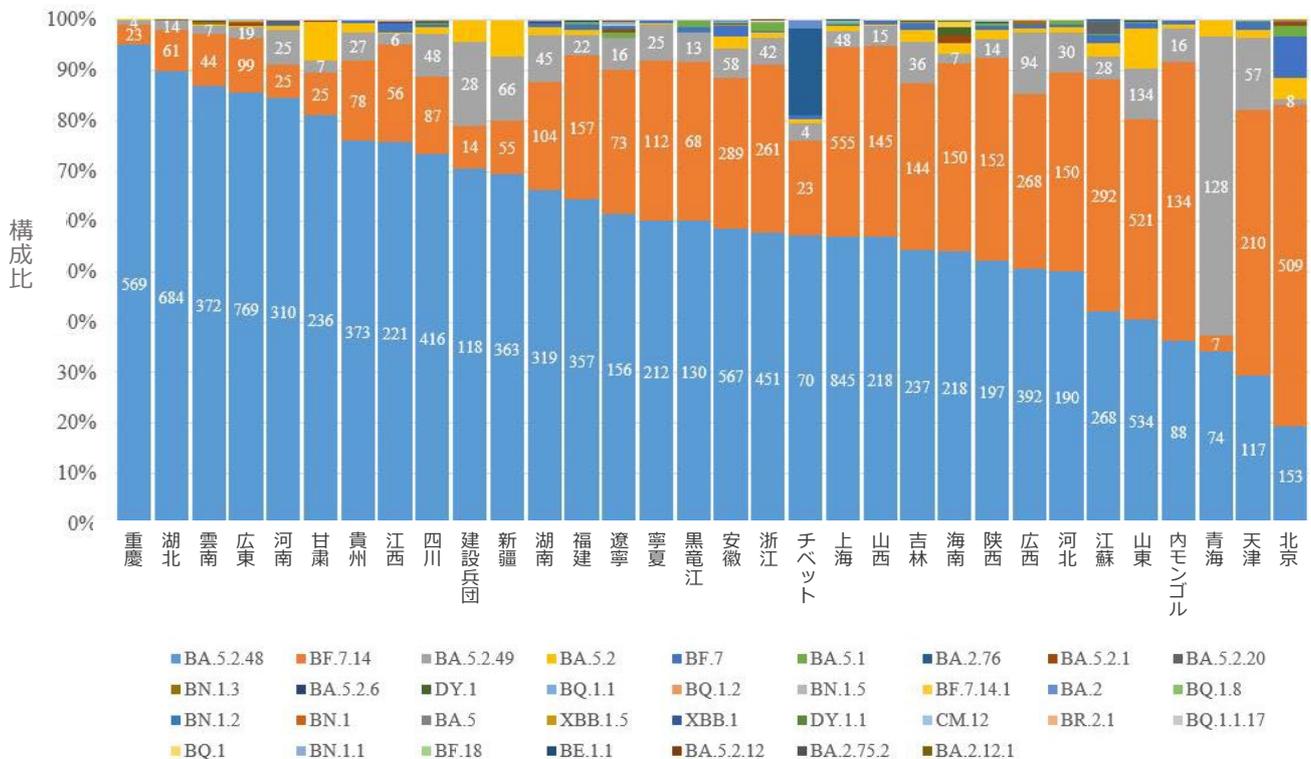


図4-2 各省のSARS-CoV-2変異サーベイランス状況

BF.7 とその亜系統が優勢株であり、江蘇省では BF.7 とその亜系統、BA.5.2 とその亜系統がほぼ半数ずつ、その他の省では BA.5.2 とその亜系統が優勢株であった（図 4-2）。

注：1. 検体採取日：2022 年 12 月 1 日～2023 年 2 月 14 日。

2. グラフ内の数字は BA.5.2.48、BF.7.14、BA.5.2.49 各系統の有効なゲノムシーケンスの数。

五、COVID-19 ワクチン接種の進展

2023 年 2 月 16 日までに、31 の省（自治区、直轄市）と新疆生産建設兵団は累計で 34 億 9,177.5 万回の接種を完成した。接種総人数は 13 億 1,036.1 万人で、基礎免疫接種完了者は 12 億 7,685.8 万人、1 回目のブースター接種済みの者は 8 億 2,710.2 万人であった。人口全体の 1 回目接種率と、基礎免疫接種完了率は、それぞれ 93.0%と 90.6 %である。60 歳以上の高齢者の接種は累計 6 億 7,949.0 万回、接種総人数は 2 億 4,167.3 万人で、基礎免疫接種完了者は 2 億 3,028.0 万人、1 回目のブースター接種済みの者は 1 億 9,266.9 万人であった。

（以下の部分は 2 月 15 日付けとほぼ同じなので省略）

日本語訳、脚注 吉川淳子